

## 第3回 宇治市歴史的風致維持向上計画検討委員会 議事概要要約

### 前回委員会の概要

#### [質疑]

歴史的風致維持向上計画検討委員会の全体のスケジュールについて

- ・年内に案をまとめ、2月にパブリックコメントを取る予定だったが遅れる見通しである。
- ・文化的景観の区域拡大の申出時期と、歴史的風致維持向上計画との整合性を図る必要性がある。

### 宇治市の維持向上すべき歴史的風致

#### [質疑]

歴史的風致の記載について

- ・日本の歴史の中でも文化的に大きな事業である平等院と平安時代にまちをつくったという点を書いてほしい。
- ・まちの生活の中にも平等院の伝統・歴史が息づいていることは注目すべきところ。
- ・藤原氏の離宮祭を現代のまちの人が継承しているのは、歴史的重層性、宇治のまちの個性を良くあらわしている。
- ・風致に関わる街路、歴史的街区を舞台として大幣神事や神幸祭が行われていることが非常に大事。セットバックや道幅の変更が多い中で、当初の街路は歴史的な遺産。
- ・宇治では陶芸活動も活発で、大きな特徴。
- ・白山神社や仏徳山など山に関わる行事について拾いおこせないか。
- ・宇治の豊富な埋蔵文化財を現代に蘇らせるといったような提言を盛り込んでどうか。
- ・宇治は浄土の風景と都市形成と両方があり、来訪者に古代の風景を彷彿とさせる内容を。
- ・白川についての内容を追加していただきたい。
- ・宇治川を中心とした漁労文化が現在も残していることを書いた方がいい。伝統的な漁法の保存の可能性もあり、検討する内容に値する。
- ・「三角形街区」という表現の検討。象徴的な三角形の街区について適切な名称を付けることができないか。

重点区域について

- ・歴史的風致維持向上計画の重点区域の設定については、もう少し先の議論になる。
- ・白川について、文化的景観の拡大時期と歴まち計画の認定申請時期が近いと思われる。次回以降重点区域を絞り込む作業。
- ・重点区域は計画変更によって拡大することも可能である。

歴史的風致維持向上計画の冊子について

- ・歴史的風致維持向上計画の冊子は都市計画をはじめ、建築に携わる方にも歴史を大事にしながらまちをつくっていく良い資料になる。

- ・まち全体の歴史と方向性を示すような内容が埋め込まれている冊子・参考書になればよい。

## 歴史的風致の維持及び向上に関する意義と方針

### **【質疑】**

#### 課題について

#### 文化財関連

- ・文化財をどう保存し、その周辺をどう整備するかを具体的に記載すべき。史跡宇治川太閤堤の活用は大きな課題である。
- ・毎年整備後にカラー舗装が普通の黒いアスファルトに戻る所が多いので、カラー舗装の場合は黒いアスファルトを使用しないで復旧できるような取り組みができればよいと思う。
- ・宇治川と防災と治水といったストーリーに太閤堤を位置づけられるのではないかと思う。

#### 道路整備関連

- ・宇治橋通りの電線類の地中化は来年度の完成を目指して計画を練り直している。
- ・宇治橋通りは歩車共存のため、交通安全に配慮すると本来のイメージと合わない。舗装についても住民の方々にも配慮するなど、折り合いをつけながらより良いものにしたい。

#### 茶業関連

- ・お茶の生産について、すぐにお茶の生産者が増えるということは大変難しい。
- ・栽培・加工・販売・消費のうち、加工や販売、飲む側などに若い人が参画できる場づくり、仕組み作りが欲しい。
- ・宇治市民もお茶に関わる場を増やしていただきたい。
- ・茶文化は日本を代表する高度な文化。それを担うのが宇治であることに触れて欲しい。
- ・茶畑をどのように活かすか。太閤堤の整備計画の中でも茶畑エリアの運営方法が課題。
- ・お茶の伝統的技術の「本ず」は宇治を魅せる技術である。大事な伝統技術として価値を持たせるような取り組みができないか。
- ・宇治の「本ず」は、近江八幡の葦を使用しているので、文化的景観を持っている他の都市や、同じ志を持っている都市との連携も大事。
- ・自分でお茶を入れ、飲み比べをするのが流行りつつあるので、そういった取り組みにも目を向けていくとよい。
- ・宇治は地下水が豊富で、お茶と水は切り離すことができない。宇治には井戸が多く、名水として巡るルートなど、お茶のテーマに盛り込めたら。

#### 観光関連

- ・どこに駐車して、どう散策をしたらいいのかイメージがつかみにくいので、駐車場や自転車道、散策路についてわかりやすい整備方針を検討してほしい。
- ・世界遺産の白川郷は駐車場でかなりの収入を得ているので、宇治市もどこでお金を落としていただけるのか検討した方がよい。
- ・宇治は宿泊施設が無く、滞在時間も短いため、観光消費額が少ない。

- ・ストーリー性を持たせた観光コースの設定、名産品や食事などの工夫が必要である。
- ・商業的な利益だけではなく、望ましい観光地として「都市観光」の視点をいれていただきたい。
- ・お茶をつくる、体験するなどの仕組みも考えるといい。
- ・歴史と結びついた観光をしてくれる人をどう呼び込むかを考える必要がある。

### 第3回 宇治市歴史的風致維持向上計画検討委員会 会議録

平成22年10月19日(火)

10:00~12:00

出席者：山崎委員、森委員、仲委員（以上、学識委員）

平松委員（代理：富岡氏）、岡本委員、山下委員、川村委員（代理：有井氏）、松村委員（代理：三木氏）、松浦委員（代理：野田氏）、五艘委員（代理：前西氏）、三枝委員、小川委員（以上、行政委員）

事務局（歴史まちづくり推進課：木下参事、藤井係長、荒川主査、木田主任、鷲田氏）  
コンサルタント（(株)文化財保存計画協会：川口、湯本）

次第：

#### 2. 前回委員会の概要

事務局より、第2回委員会の議事概要の説明。

事務局より、委員会の全体スケジュールについて説明を行い、その後質疑。

（国土交通省、文化庁、農水省との打合せの中で重要文化的景観との関係がでてきた。文化的景観については既に中宇治が選定されて、白川地区への拡大も別委員会で検討されている。文化的景観の選定後、歴史まちづくりの認定をうける事例は宇治市が初めてであり、非常に注目されている。これから事業計画の中で文化的景観の整備計画とのすり合わせが必要になってくる。当初、年内にこの委員会で案をまとめて、2月にパブリックコメントを取る予定だったが遅れる見通しで、次回の委員会日程についても再度調整をさせていただきたい。）

[質疑]

委員長：この委員会の最終はいつ頃を想定されているのか。次年度まで続くのか。いつ頃全体をまとめるのか。

事務局：宇治市は、来年春に認定の申請を出したいと考えていたが、この日程が若干遅れる。国土交通省や文化庁との調整事項だが、文化的景観の区域拡大の申出を来年度のどの時期の文化審議会に出すか、そして宇治の文化的景観に変更を加える内容と、今回作成する歴史的風致維持向上計画との具体的な整備計画、整備プログラムについて整合性を図っていく必要があると考えている。具体的な時期は未調整である。

#### 3. 宇治市の維持向上すべき歴史的風致

配布資料(パブリックコメントの素案：参考資料1、資料2、2)について説明。

事務局より、(資料2前半)について説明。

[質 疑]

委員長： 宇治は全国的にみて特別立派な歴史を持っており、その代表は平等院と平安時代にまちをつくったという点にある。日本の歴史の中でも文化的に大きな事業であった。この点をきちっと書くことが良く、他の都市との違い、日本の代表的・文化的な場所ということがはっきりする。離宮祭についても現在も市民が引き継いでいるということ、平等院がいまだにまちの人とつながって、まちの生活の中にも平等院の伝統・歴史が息づいていることは注目すべきところであるため、はっきりと書いていただきたい。

学識委員： 検討資料の中で感じたことを3つほど述べさせていただく。

藤原氏の離宮祭は現代のまちの人が継承している。これは、歴史的な重層性、宇治のまちの個性を良くあらわしているということで大事である。風致に関わる街路、歴史的な街区を舞台として大幣神事や神幸祭が行われていることが非常に大事である。街路の幅を広げたり、新しい建造物によりセットバックさせたり、かつての道幅が変更されてしまうことが多い中で、当初の街路は歴史的な遺産である。この計画の中で、例えば、街路については舗装を変えるなどの工夫も考えられる。

宇治川とその周辺も大事だが山を含むか否か検討した方がよい。資料の最後の年表には朝日焼が取り上げられているが、宇治では陶芸活動も活発で、これも大きな特徴だと思う。朝日山と朝日焼の関わりは詳しくないが、山岳との関わりがあるような気がした。焼き物・陶器に関する行事を歴史的な活動としてももう少し追加するべきだと思う。また、白山神社や仏徳山など山に関わる行事についても拾いおこせないか。

平等院の関係でいうと仏徳山の朝日山は、平安期の資料の中でも藤原氏の仏徳が積みあがって山のようになっているという表現が出てくるので、藤原氏の信仰が形になったということからも山岳についても検討したらどうか。

宇治市には豊かな埋蔵文化財がある。今回の事業では現在残っているものが中心だが、宇治市では発掘調査で、平安時代後期の貴族の邸宅や、街路、庭園、建物跡が盛んに出てきている。しかし、ほとんどが埋め戻されて現在のまち並みの形成に寄与するものが非常に少ない。宇治の大きな特徴として、今後埋蔵文化財を現代に蘇らせるといったような、一歩踏み込んだ提言などを盛り込んだらどうかと考える。

また、発掘調査成果による論文の中でも12世紀頃の貴族の邸宅は巨椋池の方向を向いていたという話がある。現在巨椋池は埋め立てられてしまったが、巨椋池の干拓地や西の方を向いた風景についても今後積極的な扱いがあるといいと思った。

委員長： 古代の宇治については全国的にみても趣をなすような歴史的環境が形成され、また、平等院が対岸まで含めて浄土の風景を造っていたと思う。ここには浄土の風景と都市形成と両方があり、現在の歴史的風致維持向上を行った暁には、来訪者に古代の風景を彷彿とさせるような、現在のまちに重なって見えるような、ロマンの時空が広がると思う。また、白川についても内容を追加していただきたい。

副委員長： 離宮祭は、もともと一つのお祭りが、宇治神社と宇治上神社とに分かれる中で、宇治上神社の氏子である槇島の方々が、宇治川を中心とした漁労文化を現在も残していることを書かれた方がいい。確かに茶業中心ではあるが、巨椋池や宇治川の生業と、宇治上神社が今も槇島の方々に支えられていることを書きこむか否かについてはポイントに

なと思う。重点区域外なので外されたのかもしれないが。

漁労文化は、鵜飼いという形で観光化に位置づけていると見うけられた。実際に漁業権を持って現在も漁業をされている方がいらっしゃるので、伝統的な漁法を保存していただく可能性もあり、この点も検討する内容に値すると考える。

6ページの「宇治茶をささえたまち」という表現は過去形ではなく、「支え続けているまち」といったような、現在も継続している表現に変えた方がいいと思う。

8ページの「三角形街区」という表現も、検討した方がいいのではないかと。他では「旧宇治郷の中心部」というような表現もされている。この象徴的な三角形の街区について適切な名称を付けることができないか。例えば、「歴史的重層地区」とか「宇治郷歴史的重層地区」などメッセージ性のあるものがあるのではないかと。

学識委員からも話があった、街路と趣の話になるが、伍町通や平安時代の道幅を未だに残すエリアは重要である。今後もそのまま残していくために、その趣をタイムスリップして感じられる空間として設けた方がいい。

白川が追加された場合、現在作成している計画には白川も包含するのか。あるいは今考えているエリアだけ該当するのか。市街地という表現が多いので白川を市街地と呼んでいいのか。

委員長： 歴史的風致を考えている範囲には現時点では白川は入っていないのか。重要文化的景観には入っているのか。その辺りについて説明をお願いしたい。

事務局： この委員会で取り扱うエリアについては、第一回の会議で少しお話をさせていただいた。歴史的風致の認定を得られそうなところは中宇治であり、その理由として既に文化的景観という価値もいただいており、充分調査も行き届いている。また、現在、文化的景観の取り組みそのものは中宇治、白川の拡大に向けた取り組みであり、その先には黄檗もお茶というテーマから検討している。したがって、歴史的風致維持向上計画の重点区域の設定については、もう少し先でご議論いただきたい。

現在は全市について調査をしているが、中宇治には色々な内容が集積しているので、記述は比較的中宇治に偏っているが、今日のところは全市全般の歴史的風致としてみたい。おそらく、文化的景観の白川地区の拡大時期と、この計画の認定申請時期が近いと思われる。そこで白川については、今後この検討委員会でも諮りたいと思っている。資料は中宇治に偏っているかもしれないが、白川についても茶畑が多く社寺も沢山あり、白川で行われている祭礼なども含めて、次回以降重点区域を絞り込む作業をお願いしたいと思っている。

委員長： 古代に形成された文化的環境の説明する中に、白川があればいいと思う。

副委員長： 古代の方に、黄檗も入るなら、なおさら重要になってくる。

事務局： 事前に国土交通省からは、まずは整備事業も含めて保全事業を行いたい場所をしっかりと検討してほしいと言われている。重点区域は一度設定したら変えられないというわけではなく、今後、計画変更によって徐々にエリア拡大することも可能であり、市の考え方や文化的景観の進捗状況、まちの取り組み状況など総合的に勘案し、つぎつぎと展開していくことは可能である。

委員長： どこの都市でも立派な歴史的風致維持向上計画の冊子を作成している。都市計画をは

じめ建築に携わる方にも歴史を大事にしながらまちをつくっていく良い資料になると思う。初めから立派なものを作るのであれば、できるだけまち全体の歴史と方向性を示すような内容が埋め込まれている冊子・参考書になればいいと感じる。

#### 4. 歴史的風致の維持及び向上に関する意義と方針

事務局より資料 - 2 後半 (A4 3 枚) について説明を行い、その後質疑。

##### [質 疑]

- 委員長： 前半は歴史的風致の理解が課題であった、後半は歴史的風致をどう継承していくか、且つどのようによりよいものにしていくのか、その方針について説明いただいた。文化財をどう保存し、その周辺をどう整備するか。そのなかに太閤堤の史跡をどう活用するかなど、もう少し具体的に書いたらどうか。この整備の中では大きな課題である。
- 事務局： 太閤堤の整備だけではなく、宇治茶と歴史文化の香るまちづくり構想を作成した際、そこを観光交流の拠点、お茶に関する文化の発信拠点、太閤堤もしっかりと情報発信したい。今回作成する歴史的維持向上計画は上記のような色々な施策を実現させるための計画として仕上げていきたい。方針については、まだ粗削りの段階であり、今日の議論で確定したいということではない。この場でご議論いただき、次回煮詰めていきたいと思っているので、色々なご意見をいただきたい。
- 行政委員： 重点整備地区内については、道路整備が考えられる。道路の美装化とあるが、もう少しふさわしい言葉がないか考えていた。今具体的に進めている計画に、宇治橋通りの電線類の地中化があり、来年度の完成を目指して計画を練り直している。文化的景観の話でもあり、市と委員の先生方にも相談しながら進めている。宇治橋通りは歩車共存のため、交通安全に配慮すると色（明度）を目立つものにさせることとなり、本来のイメージと合わなくなる。そのため、両方の折り合いについて先生方からご意見をいただいている。また、舗装についても検討している。例えばピンコロ舗装とすると振動・騒音も激しいため、沿線の住民の方々の受け入れ等にも配慮するなど、色々なことについて折り合いをつけながらより良いものになりたいと考えている
- 行政委員： お茶の生産に関わる話は、資料に書かれている通りだと理解している。特に担い手について、すぐにお茶の生産者が増えるということは大変難しい。お茶の生産に関わる栽培・加工・販売・消費のうち、途中の加工や販売、飲む側などに若い人が参画したり、色々な形で加わっていただけるような場づくり、仕組み作りが欲しいと思っている。このような仕組みを通じて、さらには宇治市民にも、お茶に関わることが目につくような場を増やしていただきたいと思う。
- 委員長： お茶の話の中で、茶問屋・茶商・茶師は、それぞれどういう仕事なのか、他の地域の人はあまり知らない。その業態についても今後継承する際に大事だと思う。文化や行事と結び付くことによって、お茶の生産の形態があり得ると思う。また、この地にはお茶の収穫には岸和田からも人が来ていると聞いたが、そういう説明も入れると面白いと思われる。
- ここは茶の生産地であるが、茶文化自体は京都など日本全体で楽しまれて、日本を代表

する高度な文化でもあるので、それを担っているのが宇治であるということについても少し触れて欲しい。

宇治に来た人は、どこに駐車してどう散策をしたらいいのかイメージがつかみにくい。白川郷（世界遺産）には広い駐車場があり、その場所も散策の方法もわかりやすい。宇治も駐車場や自転車道、散策路についてわかりやすい整備方針を検討してほしい。また、宇治は3時間ほどの滞留だが、白川郷は平均1.数時間である。白川郷は駐車場でかなりの収入を得ている。宇治市もどこでお金を落とさせていただけるのか検討した方がいい。

行政委員： 以前から宇治の場合は茶畑をどのように活かしていくかという話が出ている。太閤堤の整備計画の中でも、茶畑のエリアの運営方法が課題としてあげられている。

お茶の伝統的技術で「本ず」栽培があり、宇治を魅せる技術であると考え。このような技術をお持ちの方々をクローズアップして、より大事な伝統技術としてお茶づくりの中での位置付けを行い、その価値観を持たせるような取り組みができないかと考える。

委員長： 「本ず」はどのような材料を使っているのか。

行政委員： 資料5ページに写真が掲載されている。近代的な技術になると寒冷紗という材料を使って影をつくるが、昔は下地に葦を並べ藁でお茶の上に屋根がけを行う方法である。右の写真はさらにその上に藁をのせた写真である。杭を立てその上に葦を敷くという非常に単純な構造である。お茶の味を良くする取り組み、また、実際に茶の味が変わるということも伝統技術の中で書いていただければと思う。

行政委員： 観光面では、宇治は京都、奈良に挟まれ、宿泊施設が無く、滞在時間も短い。つまり観光消費額が少ない。同じ京都の丹後地域に比べると、入込客数は比較的多いが、観光収入額はかなり少ない。観光収入額をいかに増やすかが、この南山城地域が抱えている課題であると考え。

それに対応する施策として、平安時代以降の宇治の歴史にストーリー性を持たせた整理がされており、このストーリー性を持たせた観光コースの設定、また、観光収入額を増やすということであれば名産品や食事などを絡めるなど工夫はある。歴史資源、歴史・文化といったものは、宇治市にとって素晴らしいもので、課題をつかんだ上の工夫をすれば観光交流人口は増えると思う。単なる観光地ではなく、歴史のストーリーで売り出せば入込客数も増えると思う。なお、資料にあった観光客数の21年度の落ち込みは、新型インフルエンザの影響でどこの観光地も観光客が減っているの、記述に盛り込んで欲しい。

委員長： 世界遺産を保存に関わる ICOMOS があるが、そこが世界遺産の保存と新しい観光というレポートを書いている。新しい観光とはモニュメントを見るだけではなくて都市を体験し楽しむ動向や需要があり、都市の存在が大事であると書いている。文化財とともに暮らして来た人たちと外から来た人たちが交流をする、お互いが文化を理解することが望ましいと書かれている。ただ商業的に利益を増やすだけではなく、望ましい観光地として都市観光という視点をしっかりいれていただき、お茶をつくる、体験するなどの仕組みも考えたらいいと思う。むしろ滞在時間を長くしたいと思う人が多いと言われている。

学識委員： まちの景観や風致の重要な構成要素は、やはり人間であると感じた。そこに人が賑わ

い、どういう観光がされるかによって、都市の品格や雰囲気が大きく左右される。珍しい食べ物などではなく、歴史と結びついた観光をしてくれる人をどう呼び込むかがテーマだと思った。

13 ページの上に「歴史的風致の形成に関わる多様な歴史的資源について」と書かれており、宇治市はお茶を中心としたまちづくりを振興しながらも、都市の魅力として他の要素をどうつけ加えていくかも重要。例えばダム、子供のころ遠足でダムに来た鮮烈な記憶がある。かつてはダムにも多くの観光客がきて、花を植えたり遊歩道を整備したりしていた。ここで取り扱う歴史的風致の内容にも関わるが、先ほど話のあったストーリーを持ったまちの歴史には、宇治川と防災と治水といったストーリーもあり、太閤堤も位置づけられると思う。ダムも風致形成に重要な場所であることは確かで、治水や防災といった先人の努力の系譜としての歴史的遺産と都市の成り立ちをみて、どういう治水空間がふさわしいかを考えたり、また過去に学びつつこれからの生活空間を考えたりする観光のあり方なども、多様な歴史資源を持つ宇治市の使命としてあるのではないが。

「街路の美装化」に関しては、宇治市では既にさまざまな方策が取られているなかで、毎年整備後普通のアスファルトに戻りつつある所が多い。この地区に限っては、アスファルトを使用しないで復旧できるような取り組みができればいいと思う。

宇治の「本ず」は、近江八幡の葦を使用していると聞いている。最近では文化的景観も国民に知られるようになってきた。文化的景観を持っている他の都市や、同じ志を持っている都市との連携も大事かと思う。

お茶の生産の話があったが、京都で若い人に人気のある伊右衛門さんのお店があり、いっぱいではなかなか入ることができない。お店では茶道具やお茶葉がでてきて、自分でお茶を入れ、飲み比べをするのが流行りつつある。そういった取り組みにも目を向けていくとよい。

行政委員： いくつか課題があがっているが、必ずしもすべてを満足に行うことはできないと考える。最終的には、ここに住む人の生活を守りつつ、観光客を誘致できればいいと考える。ここで情報提供をさせていただきたい。

「水を考える南山城の会」が、去年、一昨年、京都府の地域力再生プロジェクト支援事業という、水の再発見、地下水・湧水を生かして守っていくという活動を行った。宇治は地下水が豊富で、お茶と水は切り離すことができない。美味しい茶を飲もうとすれば良い水が必要である。神明神社から宇治神社に至るまで 11 か所くらい名水の井戸があり、この報告書によると、中宇治に特に集中しており、現在も使われているところもある。新たな発見も含めて、例えば井戸を名水として巡るルートなど、お茶のテーマに盛り込めたらと思う。参考となるようであれば、次回その報告書の抜粋をお持ちしたい。

委員長： ありがとうございます。では時間がきたので、今回の議論を振り返らせてもらう。

- ・古代の文化的な都市環境、平等院を含んだ古代の都市を彷彿させるようなことを考えられないか。
- ・水と漁業、名水とお茶、防水・治水と関連付けて太閤堤を考えたらどうかなど、水に関しての意見としてが多く挙がった。
- ・お茶については、「本ず」の伝統的技術の継承、お茶の体験・都市の体験などを含んだ

滞在型の観光などが挙げられた。

- ・都市計画に関しては、特に交通問題として舗装・街路の形態・幅の問題、駐車場、サイン、歩車道に関する意見があがった。

学識委員： 地域資源を生かして地域の文化を市民にも外部の方にもお伝えるということで、宇治茶をテーマにした取り組みを学生と進めている。今回、茶業関係の方々をはじめ京都府、宇治市にも協力をいただいている。学生自身も宇治茶の面白さを語っている。11月3日、時間があれば是非参加いただきたい。

実際こういった企画を進める中で、後継者の問題、今年は商売が厳しいなど色々な話を伺うことができた。イベントを通じて、そういった声を吸い上げてコーディネートができる機能として継続できればと考えている。

以 上